

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H02729

研究課題名(和文) アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築

研究課題名(英文) Study of the Foundations of Power in Andean Civilization through Analysis of the Construction of Social Memory

研究代表者

關 雄二 (Seki, Yuji)

国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授

研究者番号：50163093

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,400,000円

研究成果の概要(和文)：ペルー北高地では、祭祀建造物での活動を中心に社会が統合されていた形成期(前3000年～紀元1年頃)の後半にあたる前800年以降に権力の生成が認められた。また権力生成にあたっては、集団が保有する集会的、社会的記憶を積極的に用いるケースと利用しないケースとが存在する点が遺構や遺物の分野横断的分析によって明らかになった。さらに、社会的記憶を利用する場合も、権力者は祭祀センター周辺の景観や独特の儀礼を組み込むなど地域によって異なる戦略をとっている点も判明した。このように、これまで遺構の形状や出土遺物の類似性や差異性だけで祭祀センター間の関係を論じてきたアンデス考古学に新たな境地をひらくことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、南米太平洋岸に成立した古代アンデス文明の形成過程について、従来の社会進化論的解釈を見直し、人々が過去をどのように捉え、どのようにその歴史観を再構築し、権力生成に利用したのかという、いわば人間の行動レベルの視点から権力生成論に展開したことに最大の意義がある。文化や社会という用語を使い変化を論じる単純な文明論ではなく、人間の主体的行動に目を向けた先端的な文明論の提示を行ったと言える。こうした人間の実践行動に重きを置く見方は、現代社会における歴史認識や国家による歴史の利用を相対化する際に重要な視座を提供するものであり、人文科学の存在意義を社会に訴えることにもつながる。

研究成果の概要(英文)：In the north highlands of Peru, the emergence of power was recognized after 800 years, which is the latter half of the Formative Period (3000 BC to 1 AD) during which society was integrated by the ritual activities related to the ceremonial centers. A multidisciplinary analysis of archaeological data such as architectures and excavated remains revealed that there are both cases in which collective and social memory held by groups were positively used and were not used in generating power. Furthermore, when using social memory, it was also found that leaders adopted different power generation strategies depending on the region, such as incorporating the landscape around the ceremonial centers, and unique rituals. In this way, we were able to open a new frontier to Andean archaeological studies, which has been discussing the relationship between the ceremonial centers only by the similarities and differences of the architectural characteristics and the excavated remains.

研究分野：アンデス考古学 文化人類学

キーワード：考古学 文化人類学 文明 権力 社会的記憶

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

従来の古代文明の形成過程の研究は、主に文化人類学の枠内で推進されてきた。古典的進化主義を経て、20世紀半ばからは、多系的進化を認めながら、部族から首長国、そして国家へという発展図式を描く新進化主義が隆盛をきわめた。その後、この見方は個々の文化の脈絡を重視する研究の前に衰退するが、現在では、発展図式に執着せず、複雑社会への過程を追う文明研究が盛んになりつつあり、本研究もそこに位置づけられる。

代表者は、1979年以来、形成期(前3000年～紀元前後)の祭祀遺跡の調査に参加し、文明形成過程の解明に努めてきた。その成果である『文明の創造力』(加藤・関編1998)において、余剰生産力の乏しい状況下でも大規模な祭祀建造物が築かれた事例をもとに、従来の食糧基盤を重視する単純な唯物史観を退け、祭祀面にエネルギーが投下されることで社会が発展したというモデルを提示し、これを「神殿更新」説と名付けた。

しかしながら「神殿更新」説では、祭祀にまつわる共同労働を重視し、社会構成員の自主的参加を前提にした社会統合論に終始したため、権力の出現など社会動態への視点が弱かった。このため代表者は、社会学者マイケル・マンの『ソーシャル・パワー』から権力概念を援用し、『権力の考古学』(関2006)を上梓した。そこでは、経済・戦争・イデオロギーという3つの権力資源に焦点を絞り、リーダーが権力を獲得する様相を追究した。結果として「神殿更新」よりも、奢侈品の取引の操作こそが、より強力な権力形成につながることを指摘することができた。こうした権力論は、アメリカ考古学でも近年注目されているが(Vaughn, K.J., D. Ogburn and C.A. Conlee (eds.) *Foundations of Power in the Prehistoric Andes* 2004)、文明初期を対象とする研究は、代表者を除けば僅かである。

さらに代表者は、『権力の考古学』で示した見解を検証すべく、科研費基盤研究(A)海外調査「先史アンデス社会における権力の生成過程の研究」(平成19～22年度)、そして科研費基盤研究(S)「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(平成23～27年度)に基づき、ペルー北部高地における最大の形成期遺跡であるパコパンパの調査を、ペルー国立サン・マルコス大学と共同で実施してきた。この結果、同遺跡では、金属器の生産・流通に軸を置く、第3の権力形成の道筋が存在した見通しが得られた。文明形成においてイデオロギーへの投資の重要性ばかりでなく、地域的多様性の検出に成功したことになる。

この研究過程で、イデオロギー分析の不十分さを感じる事象に遭遇した。一般にアンデス考古学では、土器や建築などの物質文化の変化をもって一つの画期と考え、その変化自体を前文化のイデオロギーの否定、あるいはイノベーションの産物とみなす傾向が強い。ところが代表者が手掛けるパコパンパ遺跡では、権力形成の時期に土器は大きく変化するものの、以前の文化期の建造物が再利用されるなど、新旧の建材が混在する状況が数多く検出されている。世界観の形成にかかわることが多い建築の中心軸ですら踏襲されている。この事態を前に、より精緻な分析の枠組みが必要だと痛感し本件の立案に至った。

ここで代表者が注目するのは前文化の否定ばかりでなく、連続性をも同時に説明する枠組みであり、具体的には、各遺跡における権力形成の過程において、当時の集団が保持していた、それ以前の社会に対する歴史観、社会的記憶の役割についてである。社会的記憶とは、社会集団全体で保持する過去に対する見方を指し、その構築は、祖先崇拜や権威の確立に結びつくこととされ、考古学や人類学などで近年注目を浴びている枠組みである(Van Dyke and Alcock *Archaeologies of Memory* 2003)。また社会的記憶は、否定にせよ連続にせよ、反復的行為により常に想起、忘却させることが必要ともいわれており、実践行動理論や、物質文化と人間との関係の中で権力形成を論じる点でエイジェンシー論と呼応する。

すでにエジプトやマヤなどの古代文明において、構築される社会的記憶が権力形成に結びついていたとの見解も出ているが、アンデス文明研究における検証はこれまで行われていない。連続的に見える現象を伝統、不連続的に見える現象を文化の否定、という単純な概念ではなく、社会構成員が何を過去として認識し、リーダーが過去をどのように権力形成に活かしたのかという、これまでと全く異なる新しい視点で文明形成過程に迫る試みである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、55年以上続く日本のアンデス文明研究の成果を踏襲しながらも、権力という分析視点と分野横断的な手法を考古学調査(南米ペルー共和国北部)に導入し、文明初期における複合社会の成立過程(ミクロ・レベル)を追究するばかりでなく、アンデス文明史の再構築というマクロ・レベルの課題に取り組むことにある。数千年におよぶアンデス文明のなかでも、祭祀建造物が登場した形成期(前3000年～紀元前後)社会のデータを、社会的記憶の形成と統御という斬新な切り口で分析し、新たな権力論、文明論の構築を図る。

3. 研究の方法

調査研究実施国・地域は、南米ペルー共和国北部高地、カハマルカ州チョタ郡ケロコト地区に位置するパコパンパ遺跡であり、研究計画を遂行するための研究体制については、考古学分野として日本から代表者および、研究協力者として若手研究者を派遣したほか、代表者の所属機関と学術協定を締結しているペルー国立サン・マルコス大学の教授ダニエル・モラーレス氏を海外共同研究者とし、同大学所属研究員4名の協力を得た。

研究手法としては、ミクロとマクロの2つのレベルを採用した。ミクロ・レベルとしては以下の2点にまとめられる。

(1)遺構分析を通じた社会的記憶の構築と権力形成との関係の追究

パコパンバ遺跡においては現在までに、形成期中期（前1200-前800年）から後期（前800年-前500年）にかけての利用が認められており、この間、祭祀建造物の建設、改修、更新が何度も繰り返されてきた。この膨大なデータをもとに、社会的差異の顕在化が認められる形成期後期初頭において、それ以前の建築を再利用する様相を正確に押さえることを目指した（担当 関、海外共同研究者ダニエル・モラーレス他4名）。その際、個々の遺構のみならず、遺構全体の建築軸の変遷、遺構へのアクセスの再利用についても考察を加えた。

またパコパンバ遺跡の建築軸と周辺遺跡との関係について、測量と発掘調査を通じて考察した（担当 関、坂井、研究協力者1名、海外共同研究者モラーレス他研究補助員4名）。とくに遺構におけるアクセスはもちろん、建築軸と山や天体など景観との関係も視野に入れ、社会的記憶が構築されている様相に注目した。

(2)儀礼分析を通じた社会的記憶の構築と権力形成との関係の追究

この項目については、遺物分析が重要となる。儀礼自体を考古学的に追究することには困難が伴うが、儀礼用具を分析することでその一部は解明できる。具体的には、土器などの遺物分析のほか（担当 研究協力者2名）動物考古学的手法や同位体分析（担当 鷓沢、瀧上、海外共同研究者）により、饗宴で消費された動植物種の同定、饗宴という場で繰り返し想起される空間（生息環境）や時間（狩猟時期や饗宴開催時期）を解析した。また、遺物に表現された図像とその時期的変化に関する分析も実施した（担当 研究協力者2名）。

さらに墓に注目し、被葬者の身体加工（頭蓋変形）墓の位置、構造や副葬品、さらには埋葬後の追悼行為の有無を検証した（担当 関、長岡）。身体加工は社会的地位の差異を示す証拠であり、権力形成の有効な指標となる。また被葬者に対する副葬品は、被葬者を葬った集団や、被葬者の後継者たるリーダーらが、被葬者やその事績に関する社会的記憶を構築するための道具と解釈できる。これに周辺遺跡から出土する遺物の分析を加えることで、祭祀センター全体における社会的記憶の構築の様相を追究することが可能になる。

(3)アンデス複合社会の成立と社会的記憶の関係の追究

マクロ・レベルの作業として、多くの研究集会において、アンデス全域、文明全体を対象に、アンデス複合社会の成立と社会的記憶の関係を追究した（担当 井口、海外共同研究者）。

4. 研究成果

ミクロ・レベルのアプローチのうち、(1)遺構分析を通じた社会的記憶の構築と権力形成との関係の追究については、ペルー北高地に位置するパコパンバ遺跡において、これまで着手してこなかった南側の基壇を発掘し、形成期中期後葉（前1000年～前800年）の遺構を検出した。形成期後期前葉（前800年～前500年）でも建築の配置は踏襲されていたため、儀礼空間における社会的記憶の継承がこの地区でも確認できた点は大きい。

また最上段基壇の北部区域に位置する方形半地下式パティオを調査した。以前よりこの区域に3つのパティオが築かれ、そのうちの1つで3回にわたる饗宴の痕跡が検出されていたが、他のパティオにおいても同様の饗宴儀礼が実施されたかが不明であった。すでに確認されている饗宴儀礼が、社会的地位の高い人物の埋葬の追悼という社会的記憶の生成と深く関連していた可能性がすでに指摘されていたことから、他のパティオにおける状況を把握する必要があった。結果として、饗宴の痕跡は見当たらず、代わりに中央部で地下式水路と、石彫の基部を発見することとなった。これにより同じ建築構造を持つ空間でも利用方法に差異があることが明らかになった。

さらにラ・カピヤ遺跡において発掘および、出土遺物の分析を行った。同遺跡はパコパンバ遺跡の東300メートル、パコパンバ遺跡の祭祀建造物の中心軸を延長した先に位置することから直接的な関係が以前から示唆されていたが、検証できずにいた。調査の結果、パコパンバ遺跡と同時代に、石造の基壇が築かれ、一体化した祭祀活動が展開されていたことが確認された。すなわち広範囲にわたり景観を計画的に改変していったことが確認され、その空間認識の生成や反復的な利用が、社会的記憶の形成の基盤となったことが示唆された。それに加えて、ラ・カピヤ遺跡では、パコパンバ遺跡本体では未検証だった神殿放棄後の活動の証拠が得られ、長きにわたって祭祀空間として利用された点も明らかになった。この点は、形成期以降の社会における過去の存在意義という将来の課題につながるものである。

最後に、パコパンバ遺跡で祭祀を実践していた集団の住居遺構の検出をめざした点を指摘しておく。具体的には、同遺跡の東部に位置する平坦部を調査対象として選んだ。住居址は検出できなかったが、広場のような空間が出現し、16ヶ所にわたる広範囲がすべて祭祀活動に関わる空間であることが明らかになった。これほどまで広範囲、かつ集中的な遺構調査が行われた事例は、近年のペルーでは知られておらず、そのデータが持つ意義は大きい。

ミクロ・レベルのアプローチである(2)儀礼分析を通じた社会的記憶の構築と権力形成との関係の追究においては、遺物分析に重きを置いた。2015年に発見された貴人墓（通称「ヘビ・ジャガー神官の墓」）の被葬者について、自然人類学的分析を実施した。その結果、被葬者のうち1体で、足の骨の遊離が認められ、切断痕は同定できなかったものの、もう1体の被葬者を守る目的を持つ犠牲者であった可能性が指摘され、墓の特殊性がうかがわれた。

さらに人骨資料については、儀礼的な暴力行為の痕跡をつきとめた。この成果は米国の電子ジャーナルに *Plos One* に掲載され、アンデス文明史上、もっとも古くまた確実な事例として国内外の学界で注目された。社会的記憶が生成される機会である儀礼という反復的行為の中に、暴力が組み込まれていた点を明らかにした点は重要である。このほか、儀礼的な斬首が形成期にさかのぼる点をつきとめ、*Plos One* で発表した。とくに、形成期に遡る頭骨が、神殿放棄後のカハマルカ期で祭祀に利用された点は、先史時代においても過去との関係が重要であり、社会的記憶を戦略的に用いていたことを示している。出土動物骨についても、炭素、窒素、ストロンチウムの同位体分析を行い、形成期後期に遺跡周辺でラクダ科動物を飼育し、饗宴において消費された点が明らかになった。

また貴人墓に隣接した方形パティオにおいて発見された饗宴についても、出土遺物の分析を実施した。調査では把握していた3回の饗宴については、使用された土器が時間とともに変化すること、共食以外の儀礼的要素があることなどが析出された。饗宴は、貴人墓の設置と関係していることが以前から指摘されており、貴人墓の被葬者の追悼的性格が予想されたのだが、儀礼自体が微妙に変化していったことになる。これは反復性に基づく社会的記憶自体にも動的考察が必要であることを示す重要なデータである。

さらに遺跡周辺の遺跡から出土した土器の分析を行い、その結果、社会的なリーダーが出現した点が検証されている形成期後期(前800年～前500年)に祭祀活動の範囲が縮減していることを突き止めた。権力の生成が祭祀空間の拡大やランドスケープの改変とは比例していないことになり、単純な進化主義的見方ができないことが判明した。

マクロ・レベルの研究では、日本、米国、ペルーにおける国際研究集会の場で発表したばかりでなく、日本、ペルー、スペイン、ハンガリーで計9回のシンポジウムを組織し、代表者らの研究成果と他のプロジェクトとの比較を実施した。これらの成果は、研究代表者が編者となり、研究分担者や研究協力者が数多く参加した『古代アンデス 神殿から読み取る権力の世界』(臨川書店)や海外研究協力者であるリチャード・バーガー、ルーシー・サラサールとの共編書 *Perspectives on Early Andean Civilization in Peru: Interaction, Authority, and Socioeconomic Organization during the First and Second Millennia BC* (Yale University Publications in Anthropology No.94)に結実した。

結果として、ペルー北高地においては、文明形成過程初期に権力の生成が認められ、権力基盤として社会的記憶を積極的に用いるケースと利用しないケースとが存在する点、また社会的記憶を利用する場合も、権力者は、自らの拠点である祭祀センター周辺の景観や独特の儀礼を組み込むなど多様な戦略をとっている点が判明した。これまで遺構の形状や出土遺物だけで、祭祀センター間の関係を論じてきたアンデス考古学に新たな境地をひらくことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計48件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 17件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Seki, Yuji	4. 巻 -
2. 論文標題 La centralidad del espacio social en el Periodo Formativo Temprano: Una perspectiva desde el norte de los Andes centrales.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Rafael Vega-Centeno and Jalh Dulanto (eds.), Los desafios del tiempo, el espacio y la memoria: Ensayos en homenaje a Peter Kaulicke	6. 最初と最後の頁 309-338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Seki, Yuji, Diana Aleman Paredes, Mauro Ordonez Livia and Daniel Morales Chocano	4. 巻 -
2. 論文標題 Emergence of Power during the Formative Period at the Pacopampa Site	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Richard L. Burger et al. (eds.) Perspectives on Early Andean Civilization in Peru: Interaction, Authority, and Socioeconomic Organization during the First and Second Millennia BC	6. 最初と最後の頁 107, 127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Inokuchi, Kinya and Isabelle Druc	4. 巻 -
2. 論文標題 Socioeconomic Transformations at the Ceremonial Center of Kuntur Wasi: Raw Materials, Craft Production, and Leadership	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Richard L. Burger et al. (eds.) Perspectives on Early Andean Civilization in Peru: Interaction, Authority, and Socioeconomic Organization during the First and Second Millennia BC	6. 最初と最後の頁 83, 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Sakai, Masato, Shinpei Shibata, Toshihiro Takasaki, Juan Pablo Villanueva and Yuji Seki	4. 巻 -
2. 論文標題 Monumental Architecture, Stars, and Mounds at the Temple of Pacopampa: The Rising Azimuth of the Pleiades and Changing Concepts of Landscape	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Richard L. Burger et al. (eds.) Perspectives on Early Andean Civilization in Peru: Interaction, Authority, and Socioeconomic Organization during the First and Second Millennia BC	6. 最初と最後の頁 129, 148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 関雄二	4. 巻 -
2. 論文標題 アンデス文明におけるモニュメントと権力生成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館・松木武彦・福永伸哉・佐々木憲一（編）『日本の古墳はなぜ巨大なのか 古代モニュメントの比較考古学』吉川弘文館	6. 最初と最後の頁 54, 69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本睦、マリーナ・ラミーレス	4. 巻 22
2. 論文標題 ペルー北部インガタンボ遺跡（第五次）とカニャリアコ遺跡の発掘調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代アメリカ	6. 最初と最後の頁 119, 132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakagawa, Nagisa, Juan Pablo Villanueva, Yuji Seki y Daniel Morales Chocano	4. 巻 2
2. 論文標題 La ceramica utilizada en el festin en Pacopampa durante el Periodo Formativo	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Actas del IV Congreso Nacional de Arqueologia	6. 最初と最後の頁 7, 15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakagawa, Nagisa, Yuji Seki, Juan Pablo Villanueva, Mauro Ordonez, Diana Aleman y Daniel Morales Chocano	4. 巻 1
2. 論文標題 El proceso del Complejo Arqueologico Pacopampa	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Actas del V Congreso Nacional de Arqueologia	6. 最初と最後の頁 199, 209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 中川渚、ファン・パブロ・ビジャヌエバ、関雄二、ダニエル・モラーレス	4. 巻 145
2. 論文標題 ペルー北部山地パコパンパ遺跡における饗宴 出土土器の分析から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代	6. 最初と最後の頁 95, 115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nagaoka, Tomohito, Yuji Seki, Jan Pablo Villanueva Hidalgo and Daniel Morales Chocano	4. 巻 -
2. 論文標題 Bioarchaeology of human skeletons from an elite tomb at Pacopampa in Peru 's northern highlands	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Anthropological Science	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1537/ase.200218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nagaoka, Tomohito, Yuji Seki, Mauro Ordonez Livia and Daniel Morales Chocano	4. 巻 -
2. 論文標題 Depressed skull fracture at Pacopampa in the Peru 's northern highlands in the Late Cajamarca Period	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Anthropological Science	6. 最初と最後の頁 accepted
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) accepted	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 関雄二	4. 巻 -
2. 論文標題 アンデス文明におけるモニュメンタリティ：権力とモニュメント出現の関係	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴博国際シンポジウム「日本の古墳はなぜ巨大なのか？ 古代モニュメントの比較考古学」予稿集	6. 最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関雄二	4. 巻 65(2)
2. 論文標題 モニュメントは権力の象徴なのか 南米アンデス文明の事例を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 考古学研究	6. 最初と最後の頁 26-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Villanueva Hidarugo, Juan Pablo, Yuji Seki y Daniel Morales	4. 巻 1
2. 論文標題 La tumba del Sacerdote de la Serpiente-Jaguar en el centro ceremonial Formativo de Pacopampa.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Actas del III Congreso Nacional de Arqueologia	6. 最初と最後の頁 271-281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagaoka, Tomohito, Mai Takigami, Yuji Seki, Kazuhiro Uzawa, Diana Aleman Paredes, Percy Santiago Andia Roldan and Daniel Morales Chocano	4. 巻 14
2. 論文標題 Bioarchaeological Evidence of Decapitation from Pacopampa in the Northern Peruvian Highlands	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0210458
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0210458	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takigami, Mai, K. Uzawa, Y. Seki, D. Morales Chocano and M. Yoneda	4. 巻 -
2. 論文標題 Isotopic Evidence for Camelid Husbandry during the Formative Period at the Pacopampa Site, Peru	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Environmental Archaeology	6. 最初と最後の頁 1~17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14614103.2019.1586091	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 鶴澤和宏	4. 巻 -
2. 論文標題 食の考古学研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『世界の食文化百科事典』丸善出版	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴澤和宏	4. 巻 144
2. 論文標題 南米 リヤマ・アルパカの家畜過程と古代社会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 82-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関雄二	4. 巻 -
2. 論文標題 南米のピラミッド	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『世界のピラミッド大事典』 柘風舎	6. 最初と最後の頁 453-568
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関雄二	4. 巻 -
2. 論文標題 遺跡をめぐるコミュニティの生成 南米ペルー北高地の事例から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 飯田卓編『文明史のなかの文化遺産』	6. 最初と最後の頁 63-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀧上舞	4. 巻 69(1)
2. 論文標題 アンデス文明における食性変化 - ナスカ地域の事例より -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagaoka, Tomohito, Kazuhiro Uzawa, Yuji Seki and Daniel Morales Chocano	4. 巻 12
2. 論文標題 Pacopampa: Early Evidence of Violence at a Ceremonial Site in the Northern Peruvian Highlands	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.1371/journal.pone.0185421	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 関雄二	4. 巻 -
2. 論文標題 南米における農耕の成立と文明形成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア考古学四学会編『アジアの考古学3 農耕の起源と拡散』高志書院	6. 最初と最後の頁 307-326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagaoka, Tomohito, Yuji Seki, Kazuhiro Uzawa, Mai Takigami and Daniel Morales Chocano	4. 巻 93
2. 論文標題 Prevalence of cribra orbitalia in Pacopampa during the Formative Period in Peru	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Anatomical Science International	6. 最初と最後の頁 254 ~ 261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12565-017-0404-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 鶴澤和宏	4. 巻 -
2. 論文標題 ヒト化と肉食	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 野林厚志編『肉食行為の研究』平凡社	6. 最初と最後の頁 155-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関雄二	4. 巻 32
2. 論文標題 古代アンデス文明における酒の利用	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 酒史研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関雄二	4. 巻 -
2. 論文標題 アンデス文明における権力生成過程の探求	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関雄二	4. 巻 -
2. 論文標題 パコバンバ遺跡の埋葬からみた権力生成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 267-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関雄二、ファン・パブロ・ビジャヌエバ、ディアナ・アレマン、マウロ・オルドーニェス、ダニエル・モラーレス	4. 巻 -
2. 論文標題 建築からみた権力形成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 27-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 井口欣也	4. 巻 -
2. 論文標題 クントゥル・ワシ神殿の変容過程と権力の形成：形成期後期の神殿革新は社会に何をもたらしたのか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 321-354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂井正人	4. 巻 -
2. 論文標題 パコバンバ神殿における建築活動・景観・視線・権力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 53-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴澤和宏	4. 巻 -
2. 論文標題 パコバンバ遺跡の動物利用	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 223-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀧上舞、米田穰	4. 巻 -
2. 論文標題 食料へのアクセスと権力生成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 291-317
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長岡朋人、森田航	4. 巻 -
2. 論文標題 埋葬人骨が語る社会	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 247-266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒田恵、清水正明、清水マリナ	4. 巻 -
2. 論文標題 パコバンバ遺跡における冶金 形成期の祭祀遺跡で起こった技術革新	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 161-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒田恵	4. 巻 -
2. 論文標題 パコバンバ遺跡における生産、消費そして廃棄 石器・骨角器・土製品・金属器の分析から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 133-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本睦	4. 巻 -
2. 論文標題 自然環境における神殿の位置づけ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 83-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日高真吾、橋本沙知	4. 巻 -
2. 論文標題 金属製作と権力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 191-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川渚	4. 巻 -
2. 論文標題 土器分析からの視点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 109-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鶴見英成	4. 巻 -
2. 論文標題 神殿がそこに建つ理由 ヘケテペケ川中流域における社会の変遷	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 355-384
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本雄一	4. 巻 -
2. 論文標題 ペルー南高地の神殿と権力生成：「周縁」から見た形成期社会	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 403-432
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芝田幸一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 ペルー海岸部の神殿と権力生成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関雄二編『アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界』臨川書店	6. 最初と最後の頁 385-402
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関雄二	4. 巻 -
2. 論文標題 アンデスの神殿に刻まれた人間とモノの関係	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 古屋嘉章・関雄二・佐々木重洋編『「物質性」の人類学 - 世界は物質の流れの中にある - 』同成社	6. 最初と最後の頁 35-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川渚、関雄二、ダニエル・モラーレス	4. 巻 19
2. 論文標題 補修される土器 / 補修されない土器 - アンデス形成期パコパンバ遺跡、カピーヤ遺跡の事例	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 古代アメリカ	6. 最初と最後の頁 63-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Druc, Isabelle and Kinya Inokuchi	4. 巻 12
2. 論文標題 LA-ICP-MS and petrography to assess ceramic interaction networks and production patterns in Kuntur Wasi, Peru.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Archaeological Science: Reports	6. 最初と最後の頁 151-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 鶴澤和宏	4. 巻 -
2. 論文標題 動物考古学から探るアンデスの牧畜の起源	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『家畜化と乳利用 その地域的特質を踏まえて - 搾乳の開始をめぐる谷仮説を手がかりにして - 』	6. 最初と最後の頁 191-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izeta, Andres D., Roxana Cattaneo, Mai Takigami, Fuyuki Tokanai, Kazuhiro Kato and Hiroyuki Matsusaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Estudios cronologicos del Alero Deodoro Roca Sector B (Ongamira, Cordoba, Argentina)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ARQUEOLOGIA EN EL VALLE DE ONGAMIRA (2010-2015), edited by Roxana Cattaneo and Andres D. Izeta	6. 最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakagawa, Nagisa, Yuji Seki and Daniel Morales	4. 巻 8(15)
2. 論文標題 Construccion de bases de datos: Analisis 3D de la ceramica de Pacopampa	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Arkeos	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計44件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 21件）

1. 発表者名 関雄二
2. 発表標題 モニュメントは権力の象徴なのか 南米アンデス文明における事例を中心に
3. 学会等名 考古学研究会第64回総会・研究集会テーマ『権力とは何か - 祭祀・儀礼と戦争から考える - 』（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中川渚、関雄二、ダニエル・モラーレス
2. 発表標題 ペルー北部山地パコパンパ遺跡複合の社会プロセス 出土土器の分析から
3. 学会等名 日本考古学協会第84回総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Seki
2. 発表標題 Incorporation of the Social Memory with the Cultural Heritage Management in the Peruvian Highlands.
3. 学会等名 Forum: Memory and the Museum, Sponsored by Japan Society for the Promotion of Science, Smithsonian National Museum of the American Indian, Washington,
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Seki
2. 発表標題 La estrategia de los lideres del sitio arqueologico Pacopampa en la sierra norte de Peru; desde una perspectiva de la arquitectura ceremonial.
3. 学会等名 56 Congreso Internacional de Americanistas, Simposio "Arquitectura y arqueologia prehispanica en las Americas: un debate interdisciplinar" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Yuji Seki
2 . 発表標題 La formacion de la ideologia en los Andes mediante la renovacion de la arquitecutra ceremonial.
3 . 学会等名 56 Congreso Internacional de Americanistas, Simposio “ Vogt y Rowe Reconsiderados: Arquitectura y Cosmovision en Mesoamerica y los Andes ” (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Nagisa Nakagawa, Yuji Seki, Juan Pablo Villanueva, Mauro Ordonez, Diana Aleman, Daniel Morales Chocano
2 . 発表標題 El proceso del Complejo Arqueologico Pacopampa.
3 . 学会等名 V Congreso Nacional de Arqueologia, Ministerio de Cultura del Peru (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Yuji Seki
2 . 発表標題 Descubrimiento de la tumba de los Sacerdotes de la Serpiente-Jaguar y el festin ritual en Pacopampa.
3 . 学会等名 1ra Jornada de Investigaciones Arqueologicas en la Region Cajamarca, DDC-Cajamarca
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Yuji Seki
2 . 発表標題 Establishment of Power in the Formative Period of the North Highlands of Peru.
3 . 学会等名 Dumbarton Oaks Pre-Columbian Studies Symposium “ Reconsidering the Chavin Phenomenon in the 21st Century ” (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 関雄二
2. 発表標題 アンデス文明におけるモニュメンタリティ：権力とモニュメント出現の関係
3. 学会等名 歴博国際シンポジウム「日本の古墳はなぜ巨大なのか？ - 古代モニュメントの比較考古学 - 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒田 恵、関 雄二、フアン・パブロ・ビジャヌエバ、ディアナ・アレマン、マウロ・オルドーニェス、ダニエル・モラーレス
2. 発表標題 パコバンバ遺跡における土器以外の人工遺物の時期変遷
3. 学会等名 古代アメリカ学会第 23 回研究大会 調査速報の部
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関雄二
2. 発表標題 パコバンバ遺跡の発掘 権力生成の探求と遺跡保護をめぐる地域住民との共創
3. 学会等名 日本アンデス調査60周年記念シンポジウム「アンデス文明の成り立ちを追って 日本調査団の継承と発展 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関雄二
2. 発表標題 日本のアンデス調査の継承と発展 パコバンバ遺跡の発掘
3. 学会等名 日本アンデス調査60周年記念シンポジウム「日本アンデス調査団と山形大学ナスカ・プロジェクト」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井口欣也
2. 発表標題 アンデス文明形成過程の探求 - 成果の蓄積と新しい展開 -
3. 学会等名 日本アンデス調査60周年記念シンポジウム「アンデス文明の成り立ちを追って - 日本調査団の継承と発展 - 」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関雄二
2. 発表標題 文化遺産の持続的活用 南米アンデスの事例から
3. 学会等名 第24回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuji Seki, Nagisa Nakagawa
2. 発表標題 Expansion consolidacion ? : La transformacion de la sociedad desde el Formativo Medio al Formativo Tardio en la sierra norte del Peru.
3. 学会等名 国際シンポジウム : Nuevas Perspectivas a la Formacion de Civilizacion Temprana en Los Andes: Cronologia, Interaccion, y Organizacion Social
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiro Uzawa, Mai Takigami, Yuji Seki
2. 発表標題 Beginning of Camelid Breeding during the Formative Period at the Pacopampa Site, Peru
3. 学会等名 82nd Annual Meeting of the Society for American Archaeology (SAA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中川渚、フーリオ・ファピアン、清水正明、清水マリナ、関雄二、ダニエル・モラーレス
2. 発表標題 ペルー北部山地パコパンパ遺跡出土土器の胎土分析
3. 学会等名 考古学研究会 第63回総会・研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中川渚
2. 発表標題 ペルー北部高地パコパンパ遺跡における儀礼と社会階層化 出土土器の分析から
3. 学会等名 早稲田大学考古学会 2017年度総会・公開講演会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yuji Seki
2. 発表標題 La formacion de la memoria social en relacion a las investigaciones arqueologicas realizadas en Peru.
3. 学会等名 XVIII Congreso de la Federacion Internacional de Estudios sobre America Latina y el Caribe (FIEALC 2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nagisa Nakagawa, Juan Pablo Villanueva, Yuji Seki, Daniel Morales Chocano
2. 発表標題 La ceramica utilizada en el festin en Pacopampa durante el Periodo Formativo.
3. 学会等名 IV Congreso Nacional de Arqueologia, Ministerio de Cultura del Peru. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mai Takigami, Yuji Seki, Daniel Morales Chocano, Tomohito Nagaoka, Kazuhiro Uzawa, Megumi Saito-Kano, Minoru Yoneda
2. 発表標題 The Introduction of an Agro-Pastoral System during the Late Formative Period in the Northern Highlands, Peru.
3. 学会等名 II Taller de Arqueología e Isotopos Estables en el Sur de Sudamerica (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鶴澤和宏、関雄二、ダニエル・モラーレス
2. 発表標題 パコバンバ遺跡の考古動物相：多様性と類似性を評価する
3. 学会等名 古代アメリカ学会第22回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒田恵、関雄二、ファン・パブロ・ピジャヌエバ、ディアナ・アレマン、マウロ・オルドーニェス、ダニエル・モラーレス
2. 発表標題 パコバンバ遺跡における儀礼的廃棄 饗宴儀礼共伴資料の分析を中心に
3. 学会等名 古代アメリカ学会第22回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関雄二
2. 発表標題 ペルーの文化遺産の保存と活用 住民参加の可能性を探る
3. 学会等名 客家文化発展センター国際シンポジウム「博物館と客家研究」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuji Seki
2. 発表標題 El festin ceremonial, la creacion de la memoria social y la veneracion ancestral en Pacopampa.
3. 学会等名 国際フォーラム Monumentalidad y Poder en los Andes (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masato Sakai
2. 発表標題 Geoglifos de Nasca y poderes en la sociedad Nasca.
3. 学会等名 国際フォーラム Monumentalidad y Poder en los Andes (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長岡朋人、鶴澤和宏、関雄二、ダニエル・モラーレス
2. 発表標題 中央アンデスにおける最古の暴力の儀礼 アンデス文明遺跡から出土した人骨の古病理学的研究
3. 学会等名 日本医史学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中川渚
2. 発表標題 ペルー北部高地パコパンパ遺跡の儀礼と社会階層化 土器製作・流通・消費分析から
3. 学会等名 古代アメリカ学会 第6回東日本部会研究懇談会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yuji Seki, Juan Pablo Villanueva, Daniel Morales Chocano
2. 発表標題 Descubrimiento de la tumba (Sacerdotes de Serpiente-Jaguar) en Pacopampa 2015.
3. 学会等名 II Simposio Internacional: Arqueologia, Arquitectura y Museos (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Atsushi Yamamoto
2. 発表標題 La dinamica social y paisaje del valle de Huncabamba: Construcciones de los centros ceremoniales e interacciones interregionales
3. 学会等名 II Simposio Internacional Arqueologia, Arquitectura y Museos (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomohito Nagaoka, Wataru Morita, Yuji Seki, Kazuhiro Uzawa, Mauro Ordonez Livia, Dianna Aleman Paredes, Daniel Morales Chocano
2. 発表標題 Bioarchaeological study of the human skeletal remains from the Pacopampa site in Peru: a brief description of the 2005-2015 fieldwork
3. 学会等名 Eighth World Archaeological Congress (WAC-8) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yuji Seki
2. 発表標題 La disposicion arquitectonica como memoria docial de los sitios arqueologicos formativos en la sierra norte del Peru: Una perspectiva de los estudios de Pacopampa y Kuntur Wasi.
3. 学会等名 III Congreso Nacional de Arqueologia (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Atsushi Yamamoto, Marina Ramirez
2. 発表標題 Excavaciones de los sitios arqueologicos Inгатambo y Yerma
3. 学会等名 III Congreso Nacional de Arqueologia (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Juan Pablo Villanueva Hidalgo, Yuji Seki, Daniel Morales Chocano
2. 発表標題 La tumba de los sacerdotes de la serpiente-jaguar en Pacopampa.
3. 学会等名 III Congreso Nacional de Arqueologia
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Isabelle Druc, Kinya Inokuchi, Laure Dussubieux
2. 発表標題 Ceramic Interaction Networks and Production Patterns in Kuntur Wasi, Peru, as seen from LA-ICP-MS and Petrographic Analyses.
3. 学会等名 The 35th Annual Meeting of the Northeast Conference on Andean and Amazonian Archaeology and Ethnohistory (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鶴澤和宏、ディアナ・アレマン、フアン・パブロ・ビジャヌエバ、関雄二
2. 発表標題 パコパンバ遺跡の儀礼的コンテキストから出土した動物骨資料：饗宴との関係を中心として
3. 学会等名 古代アメリカ学会第21回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 長岡朋人, 関雄二, 鶴澤和宏, フアン・パブロ・ピジャヌエバ, ダニエル・モラーレス
2. 発表標題 ペルー, パコパンパ遺跡から出土した人骨の生物考古学的研究 2016年度調査報告
3. 学会等名 古代アメリカ学会第21回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中川渚, 関雄二, ダニエル・モラーレス
2. 発表標題 パコパンパ遺跡カハマルカ期ミニチュア土器の分析
3. 学会等名 古代アメリカ学会第21回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 瀧上舞, 関雄二, 長岡朋人, 鶴澤和宏, ダニエル・モラーレス, 米田穰
2. 発表標題 ペルー北部高地パコパンパ遺跡における形成期後期のC4資源利用
3. 学会等名 古代アメリカ学会第21回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomohito Nagaoka
2. 発表標題 Bioarchaeology of ritual sacrifice in Pacopampa in the northern highlands of Peru.
3. 学会等名 Archaeologies of violence, migration and ethnicity: Perspectives from Japan and Sweden. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 関雄二
2. 発表標題 考古学からみた社会的差異の登場：アンデス文明を中心に
3. 学会等名 社会動態セミナー「人類社会における不平等の生成と発達」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuhiro Uzawa, Mai Takigami, Yuji Seki
2. 発表標題 Begining of Camelid breeding during the Formative period at the Pacopampa site, Peru.
3. 学会等名 Symposium "Ecological adaptations and new insight into herding practices in the Andes during the prehispanic times" 82nd Annual meeting SAA (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tomohito Nagaoka, Kazuhiro Uzawa, Yuji Seki
2. 発表標題 Evidence of ritual sacrifice in Pacopampa in the northern highlands of Peru. Violence, Writing and Frontier in Pre-Columbian America.
3. 学会等名 国際シンポジウムViolence, Writing and Frontier in Pre-Columbian America. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mai Takigami, Fuyuki Tokanai, Minoru Yoneda
2. 発表標題 High C4 plants consumption from the Late Intermediate period in Cuzco region.
3. 学会等名 Society of American Archaeology 82nd Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 大城道則・青山和夫・関雄二	4. 発行年 2018年
2. 出版社 椋風舎	5. 総ページ数 639
3. 書名 世界のピラミッド大事典	

1. 著者名 関雄二（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 480
3. 書名 アンデス文明 神殿から読み取る権力の世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築（2016-2019） http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/16H02729 アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築 http://www.r.minpaku.ac.jp/seki to/kaken2/index.html アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築（2016-2019） http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/16H02729 科学研究費補助金基盤研究(A)海外「アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築」代表：関雄二 http://www.r.minpaku.ac.jp/seki to/kaken2/index.html アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築（2016-2019） http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/16H02729 科学研究費補助金基盤研究(A)海外「アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築」代表：関雄二 http://www.r.minpaku.ac.jp/seki to/kaken2/index.html</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	坂井 正人 (Sakai Masato) (50292397)	山形大学・人文社会科学部・教授 (11501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	瀧上 舞 (Takigami Mai) (50720942)	山形大学・人文社会科学部・学術研究員 (11501)	
研究分担者	鵜澤 和宏 (Uzawa Kazuhiro) (60341252)	東亜大学・人間科学部・教授 (35503)	
研究分担者	井口 欣也 (Inokuchi Kinya) (90283027)	埼玉大学・人文社会科学研究科・教授 (12401)	